

アイフル 株式会社

証券コード 8515

# アイフル通信

第43期 期末報告 2019.4.1▶2020.3.31

Vol.48

June 2020



 AIFUL



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本年6月23日より、当社の代表取締役社長 社長執行役員に就任致しました福田光秀でございます。

当社グループを取り巻く経営環境は、足元では新型コロナウイルスの感染拡大による影響が懸念されますが、中長期的には、業界の事業リスクである利息返還請求が減少トレンドとなっており、消費者・事業者向けのローンやクレジットカードなどの国内での金融事業、アセアンを中心とした海外事業のいずれにおきましても安定した成長が見込めます。引き続き独立系のリテール金融グループとして強みを活かしつつ、当社グループを成長させてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 経営戦略

当社グループは「誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る」を経営理念として、お客様の健全な消費活動や事業活動のサポートを通じて経済社会に貢献することを使命とし、「お客様の期待を超えるサービス・商品を提供し、国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループ」を目指しております。

当社グループが目指す姿の具現化のため、経営の本質である「安全性」「収益性」「成長性」のバランスを重視した経営に重点を置き、更なる成長と発展を目指しております。

「安全性」と「成長性」の面では主力事業であるローン

事業の残高の増加を図りつつ、保証事業や海外事業など、その他の事業での占有比率を高め、金融の多角化の推進と事業ポートフォリオの分散を進めております。また、指標の一つとなる自己資本比率は20%を目指しております。「収益性」の面では、営業アセットの増加によるトップラインの拡大を図るとともに、調達コストの低下やBPR・RPAの導入による合理化、効率化でコスト削減に努めております。

今後におきましても、こうした重点項目を更に推進し、国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループ化を加速させてまいります。

## 2020年3月期の業績について

2020年3月期の決算業況についてご報告申し上げます。

収益面については、主力事業であるローン事業や信用保証事業を中心とした営業アセットの拡大に伴う営業貸付金利息や信用保証収益の増加を主な要因として、1,270億円（前期比10%増）となりました。

また、費用面においては、調達コストの低下により金融費用が減少した一方、利息返還請求の減少が当社想定よりも鈍化している状況を踏まえた利息返還関連費用169億円（同47%増）の計上や営業アセットの増加などにより貸倒関連費用が増加したことを主な要因として、1,253億円（同12%増）となりました。

以上の結果、営業利益が16億円（同45%減）、経常利益が17億円（同58%減）となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、非支配株主に帰属する当期純損失10億円を計上した結果、13億円（同85%減）となりました。



### 2021年3月期の計画について

当社グループにおいては、ローン事業を始めとするリテール金融が国内外で成長局面の一方、新型コロナウイルスの感染拡大の影響や今後の動向が現時点で不透明であるため、業績の見通しが困難な状況にあります。

従いまして、2021年3月期の連結業績予想はその影響を取り込んでいない予想値となるものの、営業収益は1,391億円(前期比10%増)、営業費用は1,191億円(同5%減)を見込んでおります。この結果、営業利益が199億円、経常利益が203億円、親会社株主に帰属する当期純利益が179億円を計画しております。

### 最後に

お客さまのニーズが多様化する中、当社グループにおきましても、スピード感を持った変革が求められます。今後もすべてのステークホルダーの皆様への期待にお応えできるよう、全力を尽くしてまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

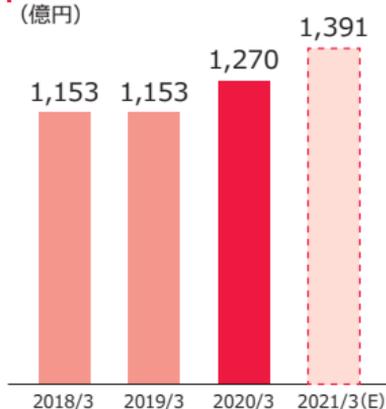
2020年6月  
アイフル株式会社 代表取締役社長

**福田光秀**



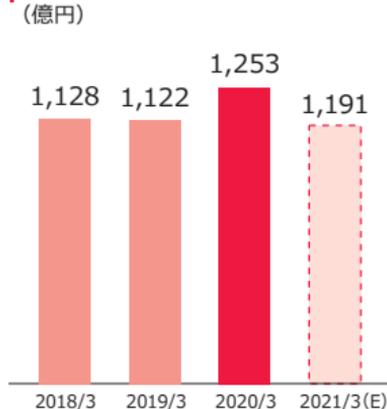
## 営業収益

(億円)



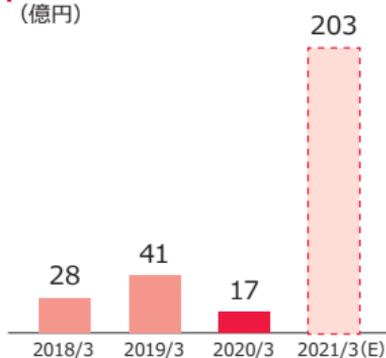
## 営業費用

(億円)



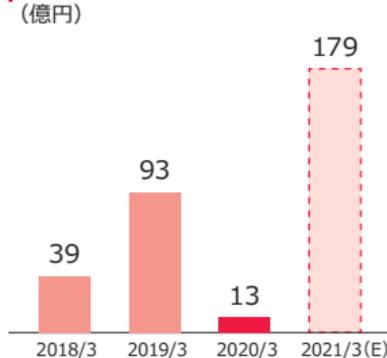
## 経常利益

(億円)



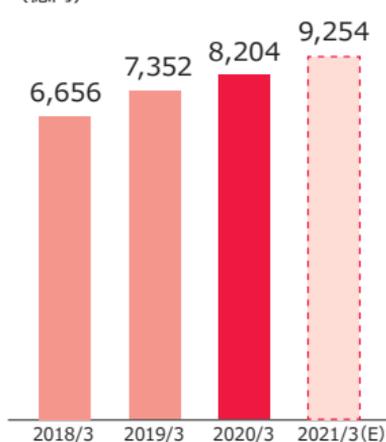
## 当期純利益

(億円)



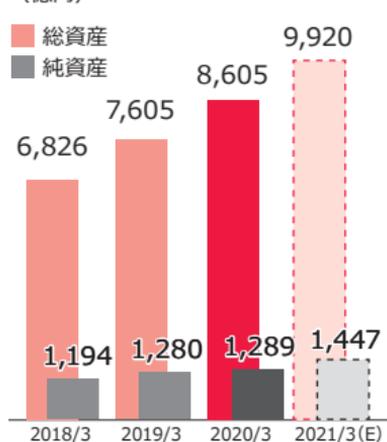
## 営業アセット

(億円)



## 総資産・純資産

(億円)

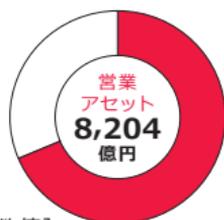




## 事業別概要

### ローン事業(国内)

5,506億円(比率67%)



[主要数値]

無担保 ローン	4,637億円 (前期末比+10%)
事業者 ローン	644億円 (前期末比+16%)

### クレジット事業

1,114億円(比率14%)



[主要数値]

買上実績	7,078億円 (前期末比+1%)
割賦売掛金残高 (クレジットカード)	1,057億円 (前期末比+2%)

### ローン事業

国内でのローン事業は、無担保ローンおよび事業者ローンの残高がいずれも順調に増加しており、当期末で5,506億円(前期末比10%増)となりました。このうち、無担保ローンの残高は4,637億円(同10%増)となりました。

アイフルにおいては、テレビCMやWEBを中心とした効果的な広告展開のほか、チャットサービスの機能拡充などにより、お客様へのサービス向上に取り組んでおります。その結果、当期の新規申込件数は47万1千件(同7%増)、新規成約件数は20万6千件(同3%増)となりました。

アイフルの当期末のローン残高は4,376億円(同10%増)、このうち無担保ローンの残高は4,223億円(同11%増)となりました。

このほか、事業者ローンを取り扱うビジネストにおいては、事業者向けの与信ノウハウを活かし、引き続き個人事業主や中小企業のニーズに合わせた商品・サービスを提供しております。その結果、当期末でのビジネストのローン残高は707億円(同22%増)となりました。

### クレジットカード事業

ライフカードが行うクレジットカード事業では、アフィリエイト広告の積極展開や病院・大学などとの提携カード発行などによる入会申込の拡大、金融機関などとの提携ビジネスカード発行による法人分野の拡大に努めるとともに、利用限度額の増額推進や決済サービスの拡充など、カード会員の利便性向上に取り組んでまいりました。結果、当期末の有効カード会員数は575万人(前期末

## 信用保証事業

1,253億円(比率15%)



[主要数値]

個人向け 保証残高	1,063億円 (前期末比+25%)
事業者向け 保証残高	190億円 (前期末比+40%)

## 海外事業

224億円(比率3%)



[主要数値]

口座数	342千件 (前期末比-6%)
貸付残高	224億円 (前期末比-0.3%)

比0.3%減)となったものの、カード買上額は7,078億円(同1%増)となり、連結ベースの割賦売掛金残高は1,114億円(同7%増)となりました。

また、割賦売掛金残高には2020年3月期より連結の範囲となったライフギャランティー株式会社における個品割賦残高53億円を含んでおります。

### 信用保証事業

信用保証事業においては、個人および事業者の与信ノウハウや独立系の強みである「柔軟性とスピード」を活かし、保証残高拡大に向けた商品の多様化や新規保証提携の推進に取り組み、アイフル、ライフカードの双方で保証残高の拡大に努めております。その結果、当期末における信用保証残高は1,253億円(前期末比27%増)となり、個人向け無担保ローン保証残高は1,063億円(同25%増)、事業者向け保証残高は190億円(同40%増)となりました。

### 海外事業

タイ王国の無担保ローンマーケットは、経済成長に伴う消費拡大により引き続き拡大しております。このような中、消費者金融業を営むAIRA&AIFULは債権ポートフォリオの良質化を図るため優良顧客の獲得に取り組んでおります。その結果、当期末における口座数は34万件(前期末比6%減)、当期末のローン残高は224億円(同0.3%減)となりました。(AIRA&AIFULは12月決算のため、口座数・貸付残高はともに2019年12月末時点での実績となります)



## 連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

[資産の部]	前期末 (2019年3月31日)	当期末 (2020年3月31日)
<b>流動資産</b>	718,006	813,722
現金及び預金	36,112	43,524
① 営業貸付金	457,785	516,960
② 割賦売掛金	101,584	102,942
営業投資有価証券	1,209	1,451
③ 支払承諾見返	140,343	157,858
買取債権	2,472	3,121
その他	24,633	39,471
④ 貸倒引当金	△ 46,135	△ 51,608
<b>固定資産</b>	42,581	46,784
有形固定資産	16,758	19,698
無形固定資産	3,297	4,285
投資その他の資産	22,524	22,800
<b>資産合計</b>	760,587	860,507

(注)その他は1円桁まで足した数値を記載しております。

### ① 営業貸付金

ローン事業の無担保ローン残高の増加を主な要因として、会計ベースの営業貸付金残高は前期末比591億円増(同13%増)の5,169億円となりました。なお、流動化による調達のため、営業貸付金の一部をオフバランスとしております。

### ② 割賦売掛金

クレジットカード事業の買上額、リボ・分割払いの増加や、2020年3月期よりライフギャランティー株式会社を連結の範囲に含めたことを要因として、割賦売掛金残高は前期末比13億円増の1,029億円(同1%増)となりました。

### ③ 支払承諾見返

信用保証事業が順調に推移した結果、オフバランスとした営業貸付金(流動化債権)に対する保証を含めた会計ベースの支払承諾見返残高は前期末比175億円増(同13%増)の1,578億円となりました。

### ④ 貸倒引当金

当期において、貸倒損失の発生分291億円(うち、利息返還請求に係る債権放棄は12億円)を引当金から取り崩した一方、337億円の繰入を行った結果、貸倒引当金は前期末比54億円増(同12%増)の516億円となりました。なお、利息返還請求にかかる債権放棄の引当金は、前期末比11億円減(同44%減)の14億円となり、利息返還請求以外の貸倒引当金は、前期末比65億円増(同15%増)の501億円となりました。

(単位：百万円)

	前期末 (2019年3月31日)	当期末 (2020年3月31日)
<b>[負債の部]</b>		
<b>流動負債</b>	380,277	469,381
支払手形及び買掛金	21,076	37,156
支払承諾	140,343	157,858
⑤ 短期借入金	86,562	103,119
1年内償還予定の社債	7,370	20,170
1年内返済予定の長期借入金	98,728	121,928
その他	26,196	29,148
<b>固定負債</b>	252,292	262,194
⑤ 社債	20,245	15,075
長期借入金	205,803	215,601
⑥ 利息返還損失引当金	22,963	25,033
その他	3,280	6,484
<b>負債合計</b>	632,570	731,576
<b>[純資産の部]</b>		
<b>株主資本</b>	123,807	125,098
⑦ 資本金	143,454	94,028
資本剰余金	13,948	13,948
利益剰余金	△ 30,485	20,232
自己株式	△ 3,110	△ 3,110
その他の包括利益累計額合計	238	918
新株予約権	230	-
非支配株主持分	3,741	2,914
⑧ 純資産合計	128,016	128,931
<b>負債純資産合計</b>	760,587	860,507

**⑤ 有利子負債**

金融機関からの借入や公募社債の発行など、資金調達が多様化を進めた結果、有利子負債は前期末比555億円増(同11%増)の5,487億円となりました。また、平均調達金利は前期末比19bp減の1.45%となっております。

**⑥ 利息返還損失引当金**

利息返還金148億円(前期末比15%増)を引当金から取り崩した一方、169億円の繰入を行った結果、利息返還損失引当金残高は250億円となりました。なお、利息返還請求にかかる債権放棄の引当金14億円と合わせて、利息返還損失関連の引当金総額は前期末比9億円増(同4%増)の264億円となりました。

**⑦ 資本金**

2019年6月25日開催の定時株主総会の決議に基づき、繰越利益剰余金の欠損を填補し、財務内容の健全化を図るとともに、今後の資本政策の機動性および柔軟性を図るため494億円の減資を行っております。

**⑧ 純資産**

純資産は、親会社株主に帰属する当期純利益を計上したことを主な要因として前期末比9億円増(同0.7%増)の1,289億円となりました。



# 連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	前連結 会計年度 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)	当連結 会計年度 (2019年4月1日から 2020年3月31日まで)
⑨ 営業収益	115,328	127,038
営業貸付金利息	65,456	72,444
包括信用購入あっせん収益	16,466	18,862
信用保証収益	13,953	15,203
その他の営業収益	19,452	20,528
⑩ 営業費用	112,297	125,358
金融費用	7,949	7,522
一般の貸倒関連費用	28,890	35,185
利息返還関連費用	13,239	17,019
その他の営業費用	62,217	65,631
人件費	16,540	16,853
宣伝関連費用	10,395	10,764
広告宣伝費	2,675	2,662
販売促進費	7,719	8,102
⑪ 営業利益	3,031	1,679
営業外収益	1,145	529
営業外費用	66	493
⑪ 経常利益	4,110	1,716
特別利益	-	230
税金等調整前当期純利益	3,420	1,569
法人税、住民税及び事業税等	858	2,155
法人税等調整額	△ 5,621	△ 886
当期純利益	8,183	300
非支配株主に帰属する当期純利益	△ 1,162	△ 1,089
⑫ 親会社株主に帰属する当期純利益	9,346	1,390

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

#### ⑨ 営業収益

営業貸付金残高の増加に伴い、営業貸付金利息収入が前期比69億円増(同11%増)の724億円となったほか、クレジットカード事業においては包括信用購入あっせん収益が前期比23億円増(同15%増)の188億円、保証事業における信用保証収益が前期比12億円増(同9%増)の152億円となりました。その結果、営業収益は前期比117億円増(同10%増)の1,270億円となりました。

#### ⑩ 営業費用

調達コストの低下により、金融費用が前期比4億円減(同5%減)の75億円となった一方、営業アセットの増加に伴い一般の貸倒関連費用においては前期比62億円増(同22%増)の351億円となりました。また、利息返還関連費用においては利息返還請求の足元の状況を踏まえ170億円(同29%増)の追加繰入を行っております。また、その他営業費用は前期比34億円増(同5%増)の656億円となり、このうち人件費は前期比3億円増(同2%増)の168億円、集客にかかる宣伝関連費用は前期比3億円増(同4%増)の107億円となりました。その結果、営業費用は前期比130億円増(同12%増)の1,253億円となりました。

#### ⑪ 営業利益・経常利益

以上の結果、営業利益は前期比13億円減(同45%減)の16億円、経常利益は前期比23億円減(同58%減)の17億円となりました。

#### ⑫ 特別利益

非支配株主に帰属する当期純利益△10億円を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は13億円(前期比85%減)となりました。



# 連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

	前連結 会計年度 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)	当連結 会計年度 (2019年4月1日から 2020年3月31日まで)
⑭ 営業活動による キャッシュ・フロー	△ 41,765	△ 51,133
⑮ 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 4,219	△ 2,718
⑯ 財務活動による キャッシュ・フロー	52,657	55,356
現金及び現金同等物に係る 換算差額	111	△ 718
現金及び現金同等物の 増減額 (△は減少)	6,784	784
現金及び現金同等物の 期首残高	29,323	36,108
現金及び現金同等物の 期末残高	36,108	43,520

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しています。

## ⑭ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に営業貸付金などの営業アセットの増加による資金の減少などにより511億円（前期比22%増）の資金を使用しております。

## ⑮ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、無形固定資産の取得による支出などにより27億円（同36%減）の資金を使用しております。

## ⑯ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金や社債の発行による収入により、553億円（同5%増）の資金を得ております。



## ♥ 経営理念

### 誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る

経営理念にはアイフルグループが恒久的に追い求めていく方向性が込められており、経営理念の実現に向け、お客様のニーズに合わせた商品・サービスの提供により個人・法人・事業者のお客様からいつまでも支持・信頼されるよう取り組んでおります。

## ♥ アイフルグループ長期ビジョン

お客様の期待を超えるサービス・商品を提供し、国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループを目指します。

アイフルグループは「経営理念」・「金融ビジネスの本質」に沿った経営を行う事で国内外で信頼され、必要とされるグローバル金融グループを目指します。

### 〈経営理念に則った経営〉

アイフルグループの「経営理念」「心の指針」「行動の指針」「心構え」には、恒久的に追い求めていく方向性が込められています。経営理念の実現の為、我々はお客様の期待を超えるサービス・商品の提供を続け、国内外のお客様から『信頼され、必要とされる』グローバル金融グループを目指してまいります。

### 〈金融ビジネスの本質に則った経営〉

金融ビジネスの本質は「経営リスク管理」にあります。金融業におけるリスク管理とは、企業の永續のため、環境変化に常に対応できるよう「収益性」「安全性」「成長性」「人財力」のバランスをとることです。その実現の為にも、アイフルグループは金融の多角化を進め、海外進出の積極展開も行きグローバル金融グループを目指します。



## 会社概要

2020年3月31日現在

商号 アイフル株式会社(AIFUL CORPORATION)

本社所在地 京都市下京区烏丸通五条上る高砂町381-1

創業 1967年(昭和42年)4月

設立 1978年(昭和53年)2月

資本金 940億28百万円

代表者 代表取締役社長 福田 光秀

社員数 2,113名(連結)

店舗数 869店(有人20・無人849)

ホームページ <https://aiful.jp>

## アイフルグループ一覧

**アイフル** 消費者向け無担保ローン・事業者ローン・信用保証



クレジットカード・プリペイドカード・信用保証・収納代行



事業者ローン・不動産担保ローン・ファクタリング・診療報酬担保ローン



サービサー・企業再生事業



ベンチャーキャピタル



自社割賦信用保証・個別信用購入斡旋



企業再生事業

株式会社ライフストックセンター 倉庫・文書管理代行



クレジットカード



後払い決済事業



家賃債務の保証



消費者向け無担保ローン(タイ王国)



中古車オートローン(インドネシア)



リース(中国)

- |       |     |   |
|-------|-----|---|
| 1967年 | 4月  | 現社長の福田吉孝が個人経営の消費者金融業として創業。                          |
| 1978年 | 2月  | 株式会社丸高（現アイフル株式会社）を京都市に設立。                           |
| 1982年 | 5月  | 株式会社丸高が関連会社3社を吸収合併し、商号を「アイフル株式会社」に変更。               |
| 1984年 | 2月  | ATM稼働開始。  |
| 1985年 | 3月  | 第1次スコアリングシステム（自動与信システム）導入。                          |
| 1994年 | 11月 | ハートフルセンター（現コンタクトセンター）の開設。                           |
| 1995年 | 3月  | 自動契約受付機「お自動さん」を設置。                                  |
| 1997年 | 11月 | 日本証券業協会に株式を店頭登録。                                    |
| 2000年 | 3月  | 東京証券取引所市場第一部に指定。                                    |
| 2001年 | 1月  | ビジネクスト株式会社設立。                                       |
| 2001年 | 3月  | 株式会社ライフの完全子会社化。                                     |
| 2001年 | 11月 | アストライ債権回収株式会社を設立。                                   |
| 2004年 | 3月  | 国際キャピタル株式会社（現AGキャピタル）の完全子会社化。                       |
| 2007年 | 4月  | 新経営理念を発表。<br>「誠実な企業活動を通じて、社会より支持を得る」                |
| 2011年 | 7月  | グループ再編を実施。  |
| 2014年 | 12月 | タイに合併会社「AIRA&AIFUL Public Company Limited」(A&A)を設立。 |
| 2015年 | 4月  | 中国上海でリース事業を営む上海三秀がグループ入り。                           |
| 2015年 | 10月 | A&Aが「A Money」ブランドでタイでの消費者金融業を開始。                    |
| 2015年 | 11月 | グループ会社のあんしん保証株式会社が東証マザーズへ上場。                        |
| 2017年 | 4月  | 創業50周年を迎える。   |
| 2017年 | 5月  | インドネシアで中古車オートローンを取り扱うREKSA FINANCEの株式40%を取得。        |
| 2018年 | 4月  | 企業の事業再生を行うアストライパートナーズを設立。                           |
| 2020年 | 6月  | 後払い決済事業を行うAGミライバライを設立。                              |

## 社会

「お客様のため、社会のために、私たちにできること」という観点で社会貢献活動を推進しております。

### 〈大学生向けハッカソンの後援 -aihack-〉

さまざまな専門分野の人材支援、協働活動を通じて「社会・地域との共生」を深めるべく、2019年3月よりハッカソンへの後援を開始しております。

**aihack** aihackの「ai」は、将来を担う学生や様々な専門分野の人材に「関心を示す=愛」、テクノロジーを連想させる「AI」という2つの意味を含んでいます。2019年3月と2019年12月に京都大学生向けのハッカソンに後援しております。



ハッカソンとは …

hack(ハック)とmarathon(マラソン)からの造語で、プログラマーなどが複数のチームに分かれ、与えられたテーマに対し一定期間集中的にプログラムやサービスの考案などを行い、その成果を競うイベントです。

### 〈献血活動〉

血液の安定的な確保に協力するため、アイフルでは、日本赤十字社の要請に応じて、定期的に従業員を対象とした献血活動を実施しています。2020年3月期にお



いては、アイフル本社、コンタクトセンターで計4回の献血活動を行いました。2017年には継続した活動が認められ、「滋賀県知事感謝状」を頂戴しております。

### 〈寄付金の取り組み〉

「平成30年7月豪雨」「平成28年熊本地震」「東日本大震災」などにおいては、被災された方々の支援や被災地の復興のため、「新型コロナウイルス感染拡大」においては罹患された方々の支援や医療関係の皆さまに役立てていただくため、日本赤十字社へ寄付をする取り組みをしております。

## 🌿 環境

社会の一員として地球環境に配慮し、環境保全に自主的に取り組んでおります。

### 〈クールビズ・ウォームビズへの取り組み〉

地球温暖化防止を目的に「クールビズ・ウォームビズ運動」に取り組んでおります。2006年から開始し、現在では服装基準やエアコンの設定温度の統一が行われ、全社的な運動となっております。

### 〈エコキャップ運動〉

ペットボトル・キャップを集めて再利用に供し、その売上で途上国にポリオワクチンを送る「エコキャップ運動」に取り組んでおります。

～2020年3月期実績～

JCV(NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会)の活動を支援している井木商事株式会社にて約58Kgのキャップの納品を行いました。

### 〈レコロの導入〉

紙のリサイクルおよび情報漏洩防止の観点から、本社および大規模拠点では2001年からワンビシアークイブス社のリサイクル型重要書類廃棄箱「レコロ」を導入しています。

### 〈PET-Gカードの採用〉

アイフルを利用するお客様へ発行する「アイフルカード」は、焼却してもダイオキシンを発生しない地球環境に配慮した「PET-G樹脂」を採用しております。



## 株式構成

(2020年3月31日現在)

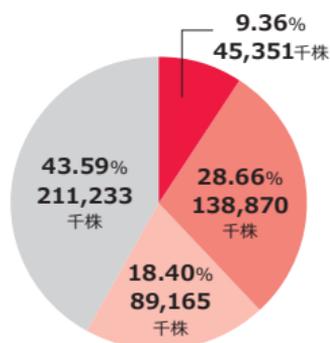
発行可能株式総数	1,136,280,000株
発行済株式総数	484,620,136株
(内、自己株式)	917,346株
株主数	31,211名

## 大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社AMG (福田吉孝一族の資産管理会社)	94,814	19.56
福田 光秀	62,155	12.83
株式会社丸高 (福田吉孝一族の資産管理会社)	24,543	5.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	12,201	2.52
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 1300000	6,637	1.37
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505325	6,326	1.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	6,272	1.29
BANK JULIUS BAER AND CO. LTD. SINGAPORE CLIENTS	6,119	1.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	6,112	1.26
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	6,005	1.24

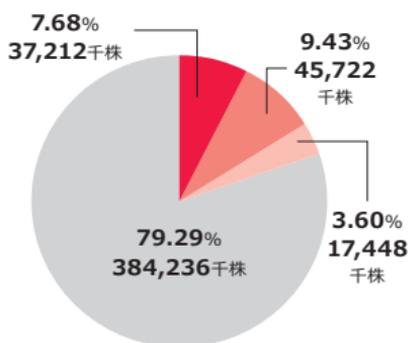
## 株式分布図

[ 所有者別 ]



- 金融機関等
- その他の法人
- 外国法人等
- 個人・その他

[ 所有株数別 ]



- 1万株未満
- 1万株以上 5万株未満
- 5万株以上 10万株未満
- 10万株以上

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、 あらかじめ公告して定めた日
株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	 0120-782-031
<b>インターネットホームページURL</b> <a href="https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a>	
単元株式数	100株
公告方法	電子公告
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
銘柄コード	8515

### 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

アイフルグループのホームページでは、会社情報、サービス内容、IR情報など最新の情報を掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



**アイフルIRウェブサイト**  
<https://www.ir-aiful.com/>

**アイフル株式会社**  
<http://www.aiful.jp>

**ライフカード株式会社**

- クレジットカード・法人カード  
<http://www.lifecard.co.jp/>
- プリペイドカード V-Preca  
<http://vpc.lifecard.co.jp/>

